

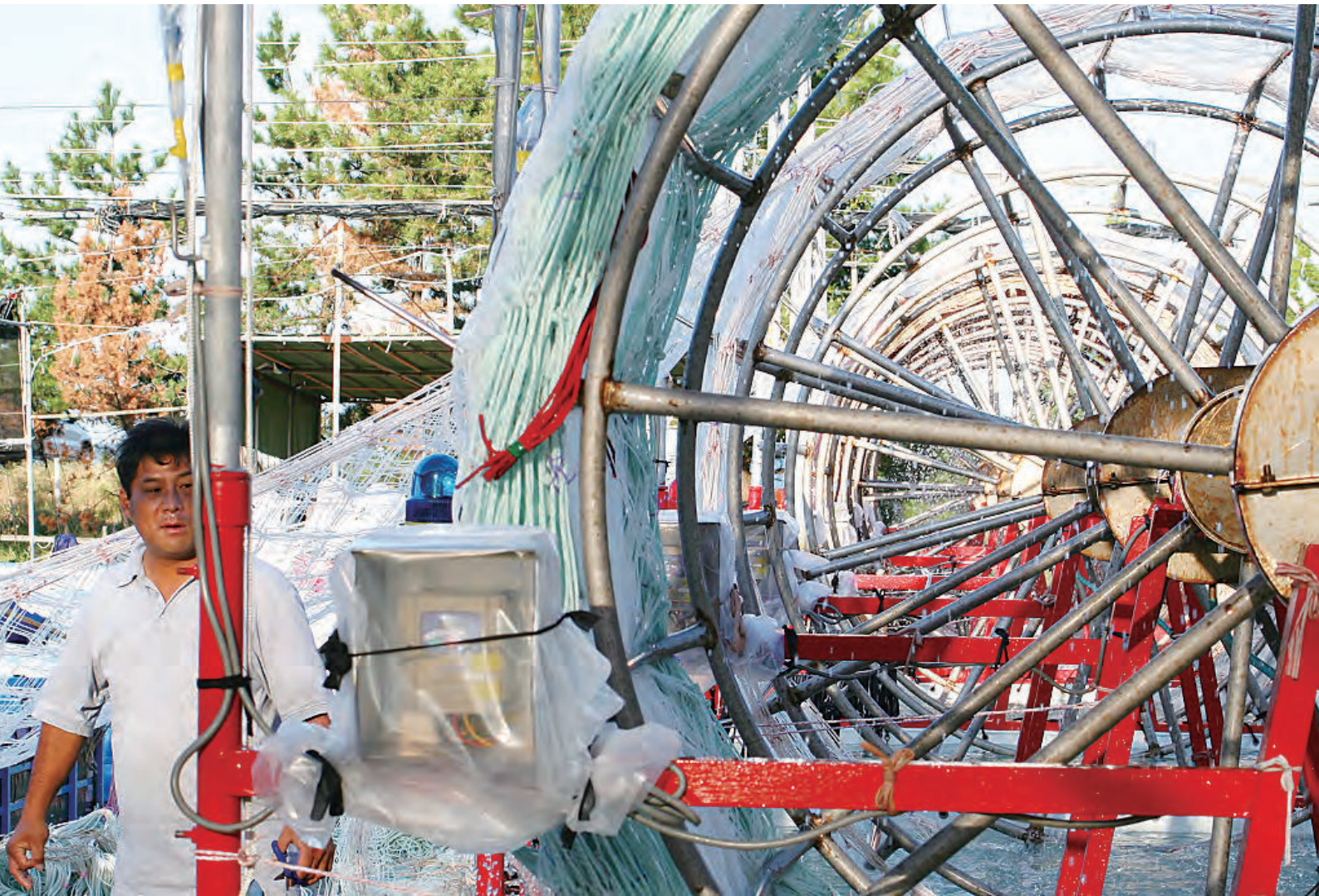
# たぐろ

TAKUSUI  
No. 696

10  
October. 2014

発行 (一財)兵庫県水産振興基金

兵庫の漁業人のための情報誌



のり採苗作業 (淡路市)

## 2014年度漁協運動功労者表彰発表 ～兵庫からは2名が受章～ 兵庫におけるポストIYCを考える集い

《今月の海上安全標語》 ～ 慌てないで!! ～

もしも海中に転落してしまったら…。まずは浮いていることが肝心!! 是非、ライフジャケットの着用を!!!  
浮くことが出来たら、手足を組んで熱を逃がしにくいHELP (Heat Escape Lessening Posture)の  
姿勢で落ち着いて!

手足組む <sup>ヘルプ</sup>HELPの姿勢で 救助待つ では、今月も安全操業で!



原点回帰

共水連兵庫県事務所企画推進課課長代理 小柴 佐玉里



赴任した当初は、こんなに長く勤められるとは正直思っていませんでした。但馬のことしか知らない私でお役に立てるのだろうかという思い。神戸（今は明石ですが）で頑張ることが但馬の方々に恩返しになるのではないかという思い。そんな思いが入り混じっていたように思います。

そんな私を支えてくれたのは、何もわからない私にたくさんの知識と経験を与えてくれた但馬の人たち。転勤するときに泣いてくれた人たち、責めることなく励ましてくれた人たち。播磨や淡路の組合の方々とうまくやっていけるだろうかと不安に思っていた私に「基本は組合員（お客様）だ。どこに行っても変わらない」と目線を合わせることの大切さを教えてくれた上司。

「そんな職場辞めてしまえ」と冗談とも本気ともつかぬ口調で言いながら、最後には黙って送り出してくれた父。「自分の好きにしたらええ」と最初から反対せず私の考えを尊重してくれた母。「私たちが求めるのは、最終的には組合員さんたち、お客様の笑顔だ」という、今は亡き恩師の入会当時の教え。

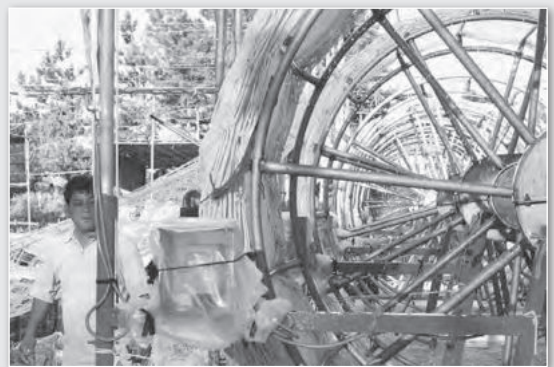
そしてそして。それに加え、この九年でたくさんの人たちに出会い、パワーをいただき、時には叱られ、ともに喜び、今があります。仕事に慣れ、やり過ぎしてしまうことも多くなりましたが、忘れてはならないこれらの人たちの思いがあります。

こないろんな人たちの思いや言葉に支えられて、今の私はできています。人は食べたもので身体はできているという話がありますが、人の心は出会った人で作られていくのではないかと思っています。会う人たちの心を元気にすることが私の信条ですが、近年元気をもらえばかりで全くお返しできていない気がしております。出会う人たちの元気の源になれるような人間になること、それが今後の課題です。最後に、私の故郷は香住ですが、心のふるさととは出会った人たちすべてを思う胸にあります。感謝。

CONTENTS

No.696 October, 2014

- 2 ようこそ
- 3 漁協運動功労者表彰の受章者が発表されました  
「平成26年度兵庫県漁業協同組合長会議」開催
- 4 ノリ採苗 はじまる
- 5 ノリ養殖について様々な角度で研修
- 6 兵庫県のり養殖安定対策協議会 定例協議会開催  
海難事故をなくそう
- 7 2014年度「兵庫におけるポスト国際協同組合年を  
考える集い」開催
- 8 「プライドフィッシュ」ってなに？
- 9 兵庫JCC通信
- 10 旬に想う  
南あわじで水産祭り



表紙の言葉

「のり採苗作業」(淡路市)

JF兵庫漁連淡路のりセンターでは10台の水車を使って採苗作業が行われています。

網の洗浄に始まり、採苗施設の設営などを行い、9月下旬からいよいよこの作業を迎えることになりました。採苗作業は水温や光の量、ノリ胞子の状態など日々変化する状況に対応することが求められます。生産者の希望する数が付着した網を外すタイミングは、各水車担当の職員が過去の経験やノリの知識から判断され、その作業はまさに職人技です。

このノリ養殖における重要な作業は、こういった多くの職員らによって、毎日、休みなく続けられます。

## 漁協運動功労者表彰の受章者が発表されました!

◎2014年度(第29回)漁協運動功労者表彰 受章

JF全漁連は、9月26日(金)に開催した理事会で2014年度漁協運動功労者37人を決定し、発表しました。

本県からは、JF浜坂 川越 一男組合長が「的確な判断と卓越した行動力で組合の経営基盤強化に貢献」、「本県水産系統団体の要職に就き、水産業の振興発展に大きく貢献」された功績が評価され、また県女性連 森会長は「県・全国女性連会長として優れた指導力・実行力を発揮」、「料理教室などの魚食普及活動や“漁業者の森づくり”などの海の環境保全にも貢献」など、漁業振興・漁村女性の社会的地位向上への功績が認められ受章されました。

心よりお慶び申し上げますとともに、今後ますますのご健勝とご活躍を祈念いたします。

～兵庫からは2名が受章～



JF浜坂 川越 一男代表理事組合長  
(JF兵庫漁連理事・JF兵庫信漁連理事)



兵庫県女性連 森 武美会長  
(全国漁協女性連会長)

10月1日(水)、神戸市内のホテルにおいて「平成26年度兵庫県漁業協同組合長会議」が、県下漁協の組合長をはじめ、行政や漁協系統団体役員など約70名が出席するなか開催されました。

会議では、現在の全国のJFグループにて検討を進めている次期JFグループの運動方針の骨子である「水産日本の復活に向けて」JFグループの挑戦」について、JF全漁連 大森 敏弘常務、石川 和彦信用・組織指導部長、高浜 彰 浜再生推進・組織指導室長から説明があり、本県JFグループでも同運動方針に沿って取組みを展開していくことが確認されました。

この次期運動方針は、「浜の活力再生」、



「平成26年度兵庫県漁業協同組合長会議」開催

JF兵庫漁連

「組織・事業基盤の確立と人づくり」、「JFの役割発揮」を3つの柱とし、組合員の経済的・社会的地位の向上を図るとともに、漁業・漁村の活性化と国民経済の発展を寄与することを目的に取組むことになっており、この方針は11月21日のJF全国代表者会議にて採択される予定となつていきます。

会議終了後には引き続き、県下組合長と兵庫県井戸 敏三知事との懇親の場である「平成26年度兵庫県漁人会」が開催され、各テーブルでは井戸知事との交流や意見交換で大いに盛り上がりました。



大いに盛り上がった「漁人会」



JF全漁連 大森常務による説明



## ノリ採苗 はじまる!

～JF兵庫漁連で約 60,000反を作業～

(一財)兵庫県水産振興基金



ノリ採苗は、気温が下がってきた9月下旬から各浜で行われ、瀬戸内の秋の風物詩となっています。

JF兵庫漁連(山田 隆義会長)では、明石市の兵庫のり研究所と淡路のりセンターの2か所で9月26日(金)から作業が始まりました。

台風一過で晴天となった10月7日(火)、



朝日が差すなか順調な作業となりました

取材に訪れた淡路のりセンターでの作業は順調に進んでおり、次々に水車の網が外され、職員やパートらは忙しく作業に追われています。  
同センター 中谷 明泰所長は「現在のところ、水温、栄養塩とも平年並みで推移している。今後はまとまった降雨があれば」と話し、今後の天候にさらなる期待を寄せていました。  
今後10月中旬まで休みなく続けられ、2か所あわせて種網約60,000反の作業を終える予定です。  
いよいよ本格的なノリ養殖漁期が始まりました。今年の豊漁を願ってやみません。



今年のノリ漁期がよい年になりますように...



顕微鏡担当者はスピードと正確性が必要

# ノリ養殖について様々な角度で研修 平成26年のり養殖技術研修会

JF兵庫漁連のり海藻事業本部

9月10日(水) 明石市の兵庫県立水産技術センターで、JF兵庫漁連(山田 隆義会長) 主催による「平成26年のり養殖技術研修会」が開催されました。

この研修会はノリ養殖の持続的発展のために必要な知識技能を習得し、ノリ養殖業の経営安定に資することを目的に毎年この時期に行われ、今年も5課題の発表があり、ノリ生産者・関係者ら約130名が集まりました。(別表参照)。



大勢の参加者で埋まる会場

JF兵庫漁連のり海藻事業本部 高瀬 博文部長は韓国のノリ生産事情について講演し、兵庫の生き残り策とし「団結、協同、分業」について今後検討していく必要があると締めくくられました。

海苔産業情報センター 藤井



藤井講師の講演風景

弘治氏の講演では、全国の様々なノリ生産者の取り組みやノリ商社の状況について話があったほか、異業種との連携について提唱がなされました。

その他、漁場環境の変化や環境施策の現状、アオノリ養殖、海苔漁場での安全対策についても発表が行われ、参加者はノリ養殖に関わる様々な情報を得ることが出来たようです。

| 題 目                           | 講師・発表者                          |
|-------------------------------|---------------------------------|
| 瀬戸内海の漁場環境と最近の環境施策の動き (講演)     | 反田 實<br>(兵庫県立水産技術センター 技術参与)     |
| 海外の海苔養殖事情とコスト削減策の検討 (講演)      | 高瀬 博文<br>(JF兵庫漁連のり海藻事業本部 本部長)   |
| 海苔の消費流通動向及び昨年の不作の影響は (講演)     | 藤井 弘治<br>(海苔産業情報センター 代表)        |
| 新規養殖開発に向けたアオノリ養殖試験について (研究報告) | 竹迫 史裕<br>(JF兵庫漁連 兵庫のり研究所 主任研究員) |
| 海苔漁場における安全対策について (報告事項)       | 第五管区海上保安本部<br>交通部企画課・警備救難部救難課   |

(発表順 敬称略)



# 兵庫県のり養殖安定対策協議会 定例協議会開催 ～平成26年度漁期対策や品質管理室の設置など承認～

## JF兵庫漁連 のり海藻事業本部

兵庫県のり養殖安定対策協議会（山田隆義会長）は9月30日（火）兵庫県水産会館において定例協議会を開催し、同協議会の会員48団体から約50名が出席しました。

同協議会のはのり養殖関連漁協ならびに行政・系統団体で構成されており、定例協議会は年に一度の総会にあたる会議で、県下ののり養殖に関する平成26年度漁期の方針や各種対策の最終決定がなされます。

各地域においては、採苗や浮き流し養殖セツトの設置などの作業が開始されるなか、定例協議会では昨年の漁期結果が報告されたあと、新漁期に向けた基本方針等が主な議題となり、生産目標数量を14億4、127万枚とすることや共販開催期間などの各種取り組みが原案通り承認されました。

また、食品に関する安全安心への関心が益々高まっていることから、本年度よりJF兵庫漁連が品質管理室を設置し、安全・安心対策としてののり加工場におけるチェック体制の向上や、加工場のモニタリング等の取り組みが上程され、原案通り承認されました。

会場からは、昨今の海の栄養塩低下によるのり生産の不振により、栄養塩豊かな海を切望するなかで瀬戸内法の改正法案にかかる質問もあり、今国会での成立を見越して「漁業者自ら各市町に対する下水道管理運転の実施や数値の変更などの要望をより一層行うべきだ」など、活発な意見交換が行われました。

# 海難事故をなくそう！

## ライフジャケットを着用しよう！

ライフジャケット着用時に海中転落した場合、未着用時に比べて**生存率が3倍**も高く、逆に非着用時は死亡率が約5倍になるといわれています。家族・友人・仲間のためにライフジャケットは必ず着用しよう。



固型式ライフジャケット  
モデル：明石浦漁業協同組合 戎本 裕明組合長

## ～安全をサポート～ 浮力合羽はお持ちですか？

JF兵庫漁連が開発したもので、浮力は十分あります。  
※ライフジャケットではありませんので、一人乗りの漁船の場合、ライフジャケットを着用してください。



暖かい！

浮きます！

モデル：JF兵庫漁連 北村 伸也さん

ライフジャケット・浮力合羽の購入は  
所属JFか**JF兵庫漁連資材部（078-942-9272）**までお問い合わせください

# 2014年度「兵庫におけるポスト国際 協同組合年を考える集い」開催

## 「協同組合間で職員の連携を深める」

### (二財)兵庫県水産振興基金

一昨年は国連の宣言した国際協同組合年であり、国を超えての様々な協同組合間連携が行われました。この連携を継続すべく、今年も、県内の生協、

農協、漁協、森林組合で構成する兵庫JCCが、次世代職員の交流から事業の連携に繋がる可能性を切り開くことを目的とした研修会「兵庫におけるポスト国際協同組合年を考える集い」を、9月26日(金)神戸市内において開催しました。各協同組合から約30名が参加し交流を深めたほか、阪神・淡路大震災から間もなく20年を迎えることから、防災・減災の意識向上も図りました。



まず、賀川記念館では、同館の西義人参事より「賀川豊彦がめざした愛と協同の社会とは」をテーマに、協同組合の父と呼ばれる賀川豊彦の足跡を振り返りつつ、同氏が目指した社会についての講演に続き、同館



人と防災未来センターでの視察の様子

内の協同組合に関する資料などを見学しました。次に訪れた「人と防災未来センター」では、防災・減災について話を聞いた後、同センター内を視察し、阪神・淡路大震災の教訓をどう生かしていくかについて学びました。最後に行われた意見交換では、参加者全員がそれぞれ協同組合の役割や、今日の視察で得たことを話しあい理解を深めました。



ワールドカフェという意見交換の手法も体験



ハザードマップで神戸市内での津波被害予想を確認



# 「プライドフィッシュ」ってなに？

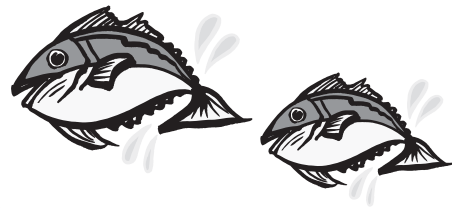
## ～JF全漁連の魚食普及の取り組み～

「プライドフィッシュ」についてはご存知の方も多いかと思いますが、JF全漁連（岸 宏会長）が進めている事業で、水産庁が行う簡単、手軽な水産加工品「ファストフィッシュ」と表裏一体のプロジェクトとして始まり、全国各地でPRイベントなどが行われています。

若年層の魚離れなどによる魚介類消費量の減少が進んでいます。消費者へのアンケートでは「健康的」、「もっと食べたい」としながら「おいしさ」については、残念ながら肉料理に劣るというイメージを持ち、魚の本当の美味しさを実感することが少なくなってきたことが伺えます。そこで、魚の本当の美味しさを知ってもらうために次の3点を盛り込みました。

- ① 全国で“魚の本当の美味しさ”の再認識をすすめるため、全国JFグループが一体となって取り組む。
- ② 実際にプライドフィッシュが食べられる、また買えるお店を紹介し、実際に食べて美味しさを味わうことで感動を共有する。
- ③ サポート協議会を設置し、幅広い分野の方々の賛同や協力を得る。

兵庫からは春：浜坂産ホタルイカ「浜ほたる」、夏：淡路島の生シラス、秋：明石浦のもみじ鯛、冬：播磨灘産 1年牡蠣が登録されており、今後、様々なPRイベントが企画されます。詳しくはJF全漁連の「プライドフィッシュ」ホームページをご覧ください。



PRIDE FISH

本当の旨さ。あなたはまだ、魚を知らない。

漁師が選んだ、本当においしい魚。それが、PRIDE FISH -プライドフィッシュ-

魚離れが年々進む中、本当においしい魚を食べたことがある人はどれだけのでしょうか。思わず感動せずにはられない魚の本当のおいしさをもっとたくさんの人に知ってもらうため、漁師が自信を持って勧める魚を「プライドフィッシュ」に認定。地域ごと、春夏秋冬ごとに、魚を知り尽くした漁師が選ぶ「今一度食べてほしい魚」をぜひ味わってみてください。

各都道府県の漁師が勧める魚が分かる！

その魚を食べられる、買えるお店が分かる！

各地域の魚のイベント情報が分かる！

暖次情報発信中!

<http://www.pride-fish.jp>

JF

おいしい魚の底力を、感動をもっと知ってほしい。だから、プライドフィッシュプロジェクトは生まれました。

若年層の魚離れなどにより、一人あたりの魚介類消費量は平成13年をピークに年々減少傾向にあります。しかし、魚料理に対するイメージ調査を見ると、「健康に良い」「もっと食べよう」という声を取り込みを進めています。一方で魚の魅力を伝えることができる水産加工品「ファストフィッシュ」への期待も高まっています。そんな思いから、プライドフィッシュプロジェクトは生まれました。

大きく減少する魚介類消費量

「魚をもっと食べたい」人は多い

子育て世代主婦によるイメージ調査

内料理 ● スタナがづく ● 満足感 ● メニューが豊富

外料理 ● もっと食べようになりたい ● 健康に良い ● 子どもにもっと食べさせたい

プロジェクト 全国委員会 委員

各分野の専門家を合わせて取り組んでいます。

会長 岸 宏 (JF全漁連)

副会長 中澤 志か (JF徳島)

役員 杉原 秀典 (JF山口)

役員 高井 美穂子 (JF福岡)

役員 上田 敏彦 (JF北海道)

まずは、プライドフィッシュWEBサイトへ。

各都道府県のJFグループが自信をもって勧める漁師自慢の魚「プライドフィッシュ」を公開中!

- 1 プライドフィッシュとは何か
- 2 全国のプライドフィッシュを紹介(順次全国公開予定)
- 3 プライドフィッシュが食べられる・買える店舗の検索
- 4 プライドフィッシュを中心としたレシピの検索
- 5 「おさかなマイスター」によるおいしい魚のお話

<http://www.pride-fish.jp>





## 協同の力で復興を 丹波市豪雨災害で ボランティア活動

8月16～17日の集中豪雨により、丹波市は土砂崩れや浸水など甚大な被害を受けました。丹波市が9月15日に発表した被害状況調査によると、市内の住宅被害は、2540戸、農地の土砂堆積は140ヵ所に上りました。復旧のため、JA丹波ひかみは8月19日、JA職員による災害ボランティアチームを結成し、活動を開始。それに伴い、兵庫県内のJA・連合会などの関係者も連日、豪雨被害を受けた被災者を「協同」の力で支援しようと、丹波市のボランティア活動に参加しました。

住宅が床下浸水した同市春日町山田の80代の男性は、「80年間ここで暮らしているがこんな被害は初めて。人手がないのでJA職員には大変感謝しています」と話しました。

ボランティアに参加したJA職員は、「組合員さんが大変な被害に遭われていて、少しでも役に立って良かったです」などと話しました。

また、9月6日から同JAでは復興に向けて稲刈り支援を始めました。特に被害が大きかった同市市島町では稲刈りの最盛期を迎えましたが、田んぼに土砂やがれきが混入して自力での稲刈りが困難な農家も多くいます。JA職員や子会社の㈱アグリサポートたんばの社員らは依頼のあった農家の圃場で流木の除去や倒伏した稲を起こしながら稲刈り作業を行いました。



ボランティア活動に精を出す職員ら

## “忘れてはいけないこと”を 一人でも多くの方に伝えたい ～ピースアクション2014

「広島被爆ピアノ平和コンサート」を開催～

兵庫県生協連では、今年で6回目となる「広島被爆ピアノ平和コンサート」を、8月20日(水)、尼崎ピッコロシアター(尼崎市)にて開催。約200名が参加しました。今回演奏された「カズコの被爆ピアノ」は、広島市で原爆投下時、爆心地より2.6kmの民家で被爆。原爆の爆風により、無数のガラスの破片が突き刺さり傷ついたピアノは、所有者よりピアノ調律師の矢川光則さんに託され、現在、平和の大切さを伝えるために全国各地でコンサートを開いています。

休憩時間には会場のみなさまに被爆ピアノを近くでご覧いただき、写真を撮られたり、ピアノに触れてみたりと、原爆の熱線を越えて平和を語り継ぐ被爆ピアノを身近に感じていただくことができました。

後半は、尼崎地域を中心に活動するゴスペル風コーラス隊「キッズ&ママ コーラス」のみなさんによる歌声で、楽しく平和へのメッセージが届けられました。広島出身のソプラノ・大島久美子さんは、「笑顔で安心して日々が暮らせることが“平和”です」「“忘れない日”は“忘れてはいけない日”でもあります。今日、被爆ピアノを聴いたことを一人でも多くの方々に伝えていただきたい」と話されました。また森須奏絵さんのピアノで、最後には「翼をください」「花は咲く」「ふるさと」を会場の全員で歌いました。

平和を祈り続ける被爆ピアノ。その美しい音色に、会場の参加者からは「小学1年と年少の娘がいます。平和の尊さや戦争の悲惨さを、そろそろ伝えていきたいと考えていたところに良い機会を与えていただきました。これを機に人として“平和”を当たり前に大事にする心を育てていきたいと思います」という声が寄せられ、来年の戦後70年を前に、音楽を通して平和への想いをつなぐコンサートになりました。



◀休憩時間には多くの方に被爆ピアノを間近でご覧いただきました



会場のみなさんと平和への願いをこめて歌いました



# 旬に想う

写真と文  
遊方子

## 邪馬台国は何処に

◆佐賀県の吉野ヶ里遺跡を見学したのは、十数年前だった。前日の雨で、酷い泥濘みが出来ていて、広大な発掘場所の二重に巡らした濠(ほり)は、雨水が溢れていた。幾つも復元してある竪穴住居が、魏志倭人伝に言う「倭」のクニを思わせ、弥生人の暮らしぶりを髣髴とさせた。弥生時代の雨の日も、こんな様子だったかと、壮大なスケールの中で古代の生活に思いを馳せた。竪穴の住まいは薄暗く、湿りを含んだ茅葺きの臭いが漂って、古代にいるような錯覚を起こさせた。暗がりから、弥生人に声を掛けられそうな感じで、思わず後ろを振り返ったのを思い出している。住居の傍らにマムシに注意と看板が出ていた。

◆大勢の見学者が発掘品を眺めてザワザワと通っていく。観光コースになっていて、大型バスでドツと団体が入ると喧嘩な賑やかさになるが、雨に降られながら広場を右往左往しサツサと帰っていく。ここでは復元家屋も発掘した青銅器や土器も立派な観光資源になっているが、豪華な華やかさは無く、土塊の皿や鉢の褐色の肌には歓声を挙げる人は極めて少ない。この吉野ヶ里が邪馬台国なら、どこかで卑弥呼が見えていて、何という喧嘩で素朴な人々だろと笑っているだろう。邪馬台国は一体何処に存在したのだろうか。九州か又は近畿か。

◆根拠とする『魏志倭人伝』は「三国志魏書烏丸鮮卑東夷倭人条」という長い名前の書物で、倭人条は二十字足らずの文章である。それも別の書物からの丸写し部分もあって信憑性に欠けるといふ学者もいる。邪馬台国は何処にあったか、卑弥呼とは誰なのか。この謎にどれほど多くの人が挑戦しただろう。その経緯は、浮世絵の世界で「写楽」を同定するのに似ている。少ない手掛かりに想像の輪をかける様子がそっくりで、邪馬台国の所在地も卑弥呼が誰なのか、クロスワードパズルの難解さと、宝探しのような楽しさがあるようだ。

◆倭人伝の中で、一ヶ所しか記述がない「邪馬台国」に何故こんな魅力が魅かれるのか不思議な気がする。論争の発端は「水行十日・陸行一月」という記述であり、近畿説または九州説あるいは海外だとする等、諸説の元凶になっている。それぞれ支持する人はいるが、定説には至らない。古代の国に興味を抱く人は誰でも、複雑な迷路に入り込んで出口を求めてウロつくようなものだが、それ自体に快感を感じて喜んでいるのかも知れぬ。邪馬台国は一体どこに在ったのか。魏から贈られた金印や、贈与に付属した管の封泥か木片でも見つかれば所在地は明らかにするが…。

## 新鮮魚介の味覚を堪能して!! 南あわじで水産祭り

(一財)兵庫県水産振興基金



南あわじの海で獲れた新鮮な魚や特産のワカメなどに親しんでもらおうという「南あわじ市水産祭り」が、10月11日(土)丸山漁港魚彩館広場で盛大に開催されました。この祭りは市内のJF湊、同南あわじ、同福良、同南淡の4漁協でつくる南あわじ市水交会と市が主催しています。台風19号の影響が心配されましたが、秋空のもと、市内外から約4千人が訪れ、各組合の「振る舞い」を味わい、新鮮な魚介を買い求めていました。各組合が工夫を凝らした自信の漁師料理「振る舞い」には、どのブースも長蛇の列で大変な賑わいでした。早朝から訪れた参加者らは焼きアナゴ、鯛飯、タコ飯、アジ・タチウオ・タコなど天ぷら、しらす釜揚げ丼など大量に準備された振る舞いに舌つづみをうち、海の恵みを味わっていました。又、別会場では組合長や市長による豊漁祈願の神事やマコガレイ稚魚の放流などが行われたあと、恒例の餅まきがあり「こっちやないの」「箱こつちやないの」「箱ごと放りいな」など、黄色い声があちこちから上がり、福餅を求める必死な争奪戦と共に笑いを誘う一幕もありました。豊かな海の幸に親しもうと訪れた人々と、漁を生業とする人達が、地域の伝統文化を通じて心を通い合わせる楽しい水産祭りでした。



● 今月号の「大輪田塾だより」は休みます。